

第5学年 家庭科学習指導案

鷺敷小学校 5年

指導者 T1 谷 篤彦

T2 大城 千晶

1 題材名 全集中！買物の呼吸 ～めざせ、買物柱～ C(1)ア(ア)(イ)イ C(2)ア

2 題材設定の理由

(1) 題材について

本題材は、小学校学習指導要領内容「C消費生活・環境」の(1)「物や金銭の使い方と買物」を受けて設定した。実践的な消費者教育を行うために、「生活の営みに係る見方・考え方」の「持続可能な社会の構築」の視点に重点をおいて学習を進める。物や金銭の使い方と買物については、具体的な買物の場面を想定することで、日常生活と関連付けて課題を見付けたり、身近な物について買物の計画を立てたりし、実践的な資質・能力を育てたい。

また、民法改正により、2022年から成人年齢が18歳に引き下げられる。小学校を卒業してから6年後に、消費者としての知識や経験が少ないまま成人を迎えることになるため、より一層若者の消費者被害が拡大することが懸念される。そのため、小学生のうちから実践的な消費者教育を行うことによって、消費者被害を防ぎ、主体的で、自立した消費者の育成につなげたい。さらに、自分たちの消費が、環境に及ぼす影響を理解したり、より環境を守る消費について考えたりすることで、環境に配慮した物の選び方や買物ができるようにしたい。さらに、中学校との系統性を図り、中学校における「売買契約の仕組み」や「消費者の基本的な権利と責任」、「消費者被害の背景とその対応」の基礎となる学習ができるようにしたい。

(2) 児童の実態について

買物に関するアンケート調査を行ったところ、90%の児童が、一人で買物をした経験があることが分かった。本校がある那賀町鷺敷地区には、コンビニエンスストアや地元の商店があるため、そこで自分のおやつとしてのおかしや飲み物を、購入したことがある児童がほとんどだった。一方、スーパーや大型商業施設からは遠く離れているため、家族に頼まれて買物に行ったり、自分で必要な物を考えて選んだりする経験は少ない。さらに、63%の児童が、不要な物を購入したり、使える物を捨てたりするなど、物や金銭を計画的に使えなかった経験があることが分かった。このような実態を踏まえ、売買契約について学んだり、買物の計画を立てたりする活動を通して、様々な視点で買物ができる消費者になれるよう、実践的な資質・能力を育てたい。

また、総合的な学習の時間では、地元の特産品である晩茶の茶摘みや製造の体験を行っており、自分たちが作った晩茶を家族にプレゼントする計画を立てている。児童一人一人のお茶への関心は高く、児童が商品を選択する学習ではお茶を取り上げる。

(3) 指導について

第1次では、日常生活を振り返り、自分たちが様々な物と関わっていることや、消費している物のほとんどは、限りある資源やエネルギーを使って作られた物であることについて考える。さらに、消費者として自分の考え方で物を選び、適切に管理し、その物のよさを生かして大切に使うという「消費者の役割」について理解できるようにする。また、物を手に入れるためには、安易に購入するだけでなく、修理したり自分で作ったりする方法もあることに気付かせたい。次に、自分の買物を振り返ったり、家族にインタビューをしたりすることで、これまで買物で失敗した経験を発表する。自分で発表したり、友達の発表を聞いたりすることで、自分たちの消費生活の中から問題を見いだせるようにしたい。また、買物で失敗した商品は店に返品すればいいのではないかと問いかけることで、次の学習につなげられるようにする。

第2次では、売買契約について理解し、消費者としての責任に気付くことができるようにする。

その上で、買物をするときには、情報を集めて比較したり、計画を立てたりする必要があると考えられるようにする。その際、買物の方法や種類、いろいろな支払いの方法についても確認する。本題材では、お茶の商品を取り上げ、買物シミュレーションを行う。値段や分量、賞味期限などの異なる商品を多様な観点から比較検討する。商品の情報を収集・整理し、使う目的や場面に合わせて買物をするための大切さを理解できるようにする。その上で、自分の買物を振り返ったり、家族にインタビューしたりすることで、かしこく買物をするためのコツを振り返る。買物メモやこづかい帳など、普段の消費生活で取り組んでいることを紹介し合い、計画的に買物をするための大切さに気付くことができるようにする。さらに、これまで自分や家族が買った物で、長く使ったり最後まで使い切ったりした商品を発表し合う。環境や資源に配慮した物の選び方や買物の仕方について考えることで、持続可能な社会を作ることにつながる消費を意識できるようにしたい。

第3次では、「気持ちがつながる家族の時間」と関連させ、家族と触れ合う時間を過ごす「団らんタイム」の中で出すお茶を買う計画を立てる。これまで学んだことを生かし、目的や場面に合わせて商品を選べるようにしたい。その上で、「団らんタイム」で購入したお茶や、家族の様子について発表し合う報告会を行う。自分たちの実践を振り返り、これからの消費生活につなげるようにしたい。

題材を通して、「『かしこい買物のプロ＝買物柱』になろう」という目標を共有しながら学習を進める。毎時間ごとに見つけた買物をする上で大切なことは、一枚のリーフレットに書き込めるようにし、実践意欲につなげたい。

(4) 研究主題または研究副主題との関わり

本題材では、研究内容(2)②「生活の営みに係る見方・考え方の視点を生かした題材構想」に重点を置き、研究副主題に迫る。「持続可能な社会の構築」という見方・考え方で身近な消費生活と環境について考えていくことで、今の自分たちの生活だけでなく、将来も人々の生活が豊かであるよう考えて生活することができる実践的な態度を育てたい。また、買物は売買契約であることをふまえて、主体的に生きる自立した消費者として、状況や目的に応じた判断や行動ができるよう、さまざまな情報を集めたり整理したりして、品質のよい物や環境や資源に配慮した品物を選ぶことの大切さを実践的な学習を通して気付かせたい。

3 題材の目標

- 物や金銭の使い方と買物や環境に配慮した生活について理解しているとともに、購入に必要な情報の収集・整理が適切にできる。(知識及び技能)
- 物や金銭の使い方と買物や環境に配慮した生活について問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。(思考力、判断力、表現力等)
- 家族の一員として、生活をよりよくしようと物や金銭の使い方と買物や環境に配慮した生活について、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとする。(学びに向かう力、人間性等)

4 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
物や金銭の大切さと身近な物の選び方、環境に配慮した生活について理解しているとともに、購入に必要な情報の収集・整理が適切にできる。	身近な物の選び方や買い方について問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	家族の一員として、生活をよりよくしようと、物や金銭の使い方と買物及び身近な環境との関わりについて、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとしている。

5 指導と評価の計画（全7時間）

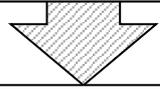
学習過程	時間	小 題 材 名 ○ ね ら い ・ 主な学習活動	評価規準・評価方法		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
とらえる	1 ・ 2	1 どのように消費しているのだろう ○物を手に入れるためにいろいろな方法を見つけたり、自分たちの消費生活の中から問題を見だし、課題を設定したりすることができる。 ・どのような場面にどのような方法で必要な物を手に入れるのかを考える。 ・自分の経験や家族へのインタビューから、買物で失敗したことを紹介し合い、意見交換をする。	①消費者の役割が分かり、物や金銭の大切さと計画的な使い方について理解している。 ・ 発言 ・ ワークシート	①物や金銭の使い方と買物について問題を見だして課題を設定している。 ・ 発言 ・ ワークシート ・ 行動観察	①物や金銭の使い方と買物や環境に配慮した生活について、課題の解決に向けて主体的に取り組もうとしている。 ・ ワークシート ・ ポートフォリオ
	見 通 す	2 かしこい買物のコツは何だろう ○売買契約や買物の方法、困ったときの解決方法について理解できる。 ・買物の中で契約が成立する場面や、買物の方法を考える。 ・消費生活センターの役割について知る。	②買い物の仕組みが分かり、物や金銭の大切さと計画的な使い方について理解している。 ・ 発言 ・ ワークシート		②物や金銭の使い方と買物や環境に配慮した生活について、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。 ・ ワークシート ・ ポートフォリオ
確 か め る	4 本 時	○買物に必要な情報を収集、整理して、物を選ぶことができる。 ・買物の場面を想定して、情報を集め、整理し、どのお茶の商品を選ぶかを決める。		②物や金銭の使い方と買物について実践に向けた計画を考え、工夫している。 ・ 発言 ・ ワークシート ・ 行動観察	

振り返る	5	<p>○上手な物の選び方や使い方を生かして、環境や資源に配慮した生活を工夫することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の経験や家族へのインタビューから、長く使ったり、最後まで使い切ったりした物を紹介し合い、意見交換をする。 ・消費者として持続可能な生活の工夫についてできることを考え、買物と環境や資源との関わりを知る。 	<p>③自分の生活と身近な環境との関わりや環境に配慮した物の使い方などについて理解している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発言 ・ワークシート 	<p>③物や金銭の使い方と買物について、実践を評価したり、改善したりしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発言 ・ワークシート ・行動観察 	
	6	<p>3上手な買物をしよう</p> <p>○これまで学習したことを生かして、買物の計画を立てることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・購入するお茶を決め、買物の計画を立てる。 	<p>④お茶の選び方、買い方を理解していると同時に、購入するために必要な情報の収集・整理が適切にできる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート 	<p>②お茶の選び方、買い方について、買物計画を考え、工夫している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発言 ・行動観察 	
家庭		<p>買物のコツを家族に伝える。</p> <p>家族との団らんタイムで出すお茶の商品を選び、買物をする。</p>			
生かす	7	<p>○実践を振り返り、これまで学習した買物で大切なことをまとめることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・団らんタイムで出すために選んだお茶や、その様子について報告し合う。 		<p>④物や金銭の使い方や環境に配慮した買物について、考えたことを分かりやすく表現している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発言 ・ワークシート ・行動観察 	<p>③物や金銭の使い方と買物や環境に配慮した生活について工夫し、実践しようとしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート ・ポートフォリオ

6 題材構想図（全7時間）

【見方・考え方】持続可能な社会の構築

【題材全体を貫く課題】かしこい買物とは何だろう

学習過程	小題材名	児童の思考	見方・考え方を働かせている思考	他教科等との関連	
	1次（2時間） どのように消費しているのだろう	<ul style="list-style-type: none"> ・たくさんの物を消費しているんだな。 ・うちの家族は、間違えて食べ物を買すぎて、捨ててしまったそうだよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新しく買わなくても、修理をすればまだ使えるな。 ・どうやったら買物で失敗することがなくなるのかな？ 	総合 晩茶作り体験をしよう 社会 国土の自然とともに生きる未来を支える食料生産	
	かしこい買物とは何だろう				
	2次（3時間） かしこい買物のコツは何だろう（本時2／3）	<ul style="list-style-type: none"> ・買物をするときは売買契約に気を付けなければいけないな。 ・量や値段をじっくり比べながら、お茶の商品を選んでみよう。 ・うちのおばあちゃんは、何十年も同じ物を大切に使っているよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者としての役割をよく考えて買物ができるようになりたいな。 ・じっくり考え、使う目的や場面に合わせて商品を選ぶことが大切だな。 ・買物で失敗しないために、計画を立てておくことが必要だな。 		
3次（2時間） 上手な買物をしよう	<ul style="list-style-type: none"> ・どのお茶を買えば家族が喜んでくれるかな。 ・家族の団らんタイムでは、みんなが好きなお茶を選んで、出してあげたよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・物を長く最後まで使って、環境にやさしい消費ができるようになりたい。 ・買物のコツを使って、計画的に買物をするのができたよ。 			
目指す子供の姿 <ul style="list-style-type: none"> ○物や金銭の大切さと身近な物の選び方、環境に配慮した生活について理解しているとともに、購入に必要な情報の収集・整理が適切にできる。（知識及び技能） ○身近な物の選び方、買い方及び環境に配慮した生活について問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。（思考力、判断力、表現力等） ○家族の一員として、生活をよりよくしようと、物や金銭の使い方と買物、環境に配慮した生活について、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとしている。（学びに向かう力、人間性等） 					
					
中学校との関連 ・・・C(1)金銭の管理と購入 (2)消費者の権利と責任 (3)消費生活・環境についての課題と実践					

7 本時の学習

(1) 目標

商品の分量や値段、原材料、産地などをよく考えて比較するとともに、使う目的や場面に合わせて物を選ぼうとし、買物の仕方を工夫しようとする事ができる。

(2) 展開

見・考

「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせる場面

時間 (分)	学 習 活 動	指導上の留意点	評価規準 ・評価方法
5	1 本時の学習課題を確認する。	○これまでの自分の買物を振り返り、買物をするときどんな視点で商品を選んでいるかを考えられるようにする。	○物や金銭の使い方と買物について実践に向けた計画を考え、工夫している。 ・発言 ・ワークシート ・行動観察
	どのようにお茶の商品を選べばよいだろう		
10	2 値段や分量、産地など商品の情報を読み取る。	○商品の情報を提示し、それぞれに特徴があることに気付くようにする。	
10	3 使う目的や場面に合わせてお茶を選ぶ。	見・考 ○「持続可能な社会の構築」の視点から商品を選ぶように声をかける。	
15	4 各自で考えたことをグループで交流し、気付いたことを全体で発表しあう。	○使う目的や場面に合わせて、どのお茶を選ぶかについて、理由とともに発表するよう助言する。	
5	5 本時の活動を振り返り、気付いたことや分かったことをまとめる。	○本時の学習をまとめる活動から、かっこいい買物の実践意欲を高めるようにする。	

(3) 評価及び指導の例

「十分満足できる」と判断される状況	商品を使う目的や場面を具体的に想定しながら、量や値段、原材料、産地などの視点から、根拠をもって選ぶことができている。
「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導	量や値段、原材料、産地などの視点から選べるような目的や場面を設定し、情報を整理して比較ができるようにする。